



39号の主な内容

- ハビタットひろば
- ハビタット支援コンサート
- ネルムさんの定年退職お祝い会
- 職員インタビュー/ネルムさん
- 深澤本部長に深澤氏就任
- 今後のスケジュール

第 **39** 号
<http://cnhf.web.fc2.com>

■ハビタットひろば

国連ハビタット福岡本部が(財)福岡県国際交流センターと合同でアクロス福岡3Fのこくさいひろばで偶数月の1日に開催している合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」の報告です。

■第14回「スリランカの下水処理施設改善事業」

2013年6月1日(土) 14:00~15:00にアクロス福岡3階こくさいひろばにて「ハビタットひろば」が開催されました。今回は、国連ハビタット福岡本部の本部長補佐官星野幸代さん、有限会社アサヒクラフトエンジニアの犬尾淳社長が、スリランカのバティカロア市で行った下水処理施設の改善事業について講演されました。



スリランカは、人口約2,200万人で、都市人口は全体の約33%と日本の約70%に比べるとまだまだ及びませんが、急速な都市化と人口増加の進んでいる国です。インフラの整備が人口増加に追いつかず、インフラの整備が遅れているのに人口だけが増加しているため、生活環境がどんどん悪くなっているという悪循環が大きな問題となっています。

ちなみにスリランカには「福岡村」という村があります。これは、スマトラ沖地震の際に、福岡市と福岡県からの多額の義援金により建てられた、47世帯の住宅がある村です。さらに、スリランカは、国連ハビタット福岡本部が住宅の再建やインフラの整備など、いくつもの事業を国内まんべんなく手がけている国でもあります。

また、スリランカは1970年代に英国からの独立を果たしましたが、その直後に国内の民族紛争が勃発し、多くの住民は約30年の長期に渡り民族紛争に苦しめられました。東部と北部地域においては、特に激しい民族紛争がありました。

加えて2004年12月に起こったスマトラ沖地震による津波により、被害の大きかった東部地域の住民は、さらに二重の苦しみを背負わなければならなくなりました。そんなスリランカの東部に位置するバティカロア市が今回のプロジェクトの舞台です。

話の始まりは、国連ハビタット福岡本部が、地元九州の優秀な技術を持つ企業とアジアの環境問題を抱えている国の代表者を招待して行った、2年前の会議にまでさかの



ぼります。その会議でアサヒクラフトエンジニアの技術や取り組みにバティカロア市の市長が関心を持ちました。

そしてその市長はこう言いました。「2007年に日本の支援で作ってもらった下水処理施設が現在は全く機能していないで困っている。アサヒクラフトエンジニアにこれらはどうにか修理してもらい、また稼働させてほしい。」

そして、その数ヵ月後、国連ハビタット福岡本部星野さんとアサヒクラフトエンジニアリング犬尾社長の現地訪問が実現しました。

首都のコロンボから道なき道を7,8時間位車に揺られて現地に到着し、対象の下水処理施設を最初に見たときに、犬尾社長は「これは本当にひどい」と思われたそうです。ここからこのプロジェクトが本格的にスタートしました。対象となったその施設は、スマトラ沖地震の復興支援事業のひとつとして、2007年にある日本の機関により造られた下水処理施設でした。せっかく日本政府の支援で造られたものの、現地の自治体に引き渡された後は、施設の使い方や運用マニュアルがきちんと伝えられていなかったために、稼働しなくなり、その後はそのまま放置されたままのものでした。

アサヒクラフトエンジニアと国連ハビタット福岡本部では、現地の人達と一緒に、貯水地のヘドロを少しずつ取り除いたり水路を掘ったりすることから始め、わずかでも少しずつ水が流れるように努力しました。流す水自体もすぐに確保できなかったため、下流にたまった水をどんどん運んできて水の流れを作りました。そうして進んでいくうちに、今度はアクアサービスという会社のバイオ製剤を使用し、現地の人達と一緒に散布して水を浄化することに努めました。

作業にはシャベルカーを使用しましたが、このシャベルカーもバティカロア市では1台しかなく、日本では普通に



アサヒクラフトエンジニアの犬尾社長と参加した市民の会の皆さん

ある工具類も現地ではなかなか調達できないなど、作業の道具類を揃えるのもままならない状況でした。加えて現地の暑さはすさまじく、同行した日本人スタッフの中には熱中症で倒れる寸前にまでなった人もいました。

こうした中で地道な作業の努力も実り、下水処理施設として生き返って、水も見違えるほどきれいになり、その機能を見事に回復しました。

そして、大事なその後の施設維持管理についても、パティカローアの市長や副市長、市議会の議長や衛生局の方々と打合せの場を設け、さらに、日々の管理ができるマニュアルを作成し、併せて運営管理マニュアルも作成して引き継ぎました。

こうして、この下水処理施設は今日現在も稼働しており、パティカローアの環境保全と衛生向上に一役担っています。

最後の方で犬尾社長が言われた「行く前は不安だらけだったが、実際に現地に行ってみると、本当にどうにかしてほしいという現地の方の熱意がひしひしと伝わり、どうにかしてあげたいと必死でやって、結果どうにかなって、本当に良かった。」という言葉がとても印象に残りました。

世界にはこのような救いを求めている場所がまだまだたくさんあると思います。改めて国連ハビタットの活動は、世界の国々でどれだけの人々の生活を改善しているだろう、どれだけの人が救われているだろうと思うと、感動してやまない講演でした。(野田修司)

■第15回「ネパールの水を守れ！」

8月1日アクロス福岡3階「こくさいひろば」にて(公財)福岡県国際交流センターとの合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」が開催され、第15回になる今回は「いのちの水」事業特別企画「ネパールの水を守れ！」をテーマに講演が行われました。



冒頭6月に就任された深澤良信国連ハビタット福岡本部本部長から挨拶があり、続いて星野幸代同本部本部長補佐官がネパールのインフラ、水状況について報告を行いました。

ネパールは人口約2620万人、面積は北海道の約2倍で海拔60m盆地からエベレスト頂上まで世界でも有数の海拔差のある国であり人口のほとんどがインド国境沿いの南部に住んでいます。ネパール人1人あたりGDPは日本人の1/7以下であり、アフガニスタンと並び後発開発途上国(開発途上国の中でも特に開発が遅れ2050年までに貧困脱却できないと予想される)に国連から指定されています。主な産業は農業、繊維加工であり日本はネパールの最大支援国となっています。王政から議会制民主国家に変わったものの政情混迷が続き憲法が現在失効中であり、地方選挙は2006年以降実施されておりません。

カトマンズ盆地には約240万人が住み、首都カトマンズ市には約120万人が住みその東にヒンズー教徒、仏教徒からも聖なる川と呼ばれるバクマティ川がカトマンズ渓谷を蛇行しています。この川流域や近辺貯水池は30~



40年前までは大変きれいで地域住民の生活用水でもありましたが、この数年人口増に伴い川岸にスラムが出来、ゴミを直接川に廃棄したり、排水やゴミ・汚水が川に流入して揮発性異臭や水質悪

化・汚染を引き起こしています。ゴミが発生してもその回収業者が川に捨てたり、本来回収すべき自治体が回収した後処理先は結局川だったりして悪循環が続いています。また近辺住民の下水普及率は40%程度であり、電力インフラ不足で1日14時間停電することもあり、その場合下水処理は20%しか処理されず残り80%はバクマティ川に捨てられています。ネパール政府・自治体はそういった状況を認識しているものの、政治的混迷や資金・技術不足により都市課題に対応できていない状況です。

国連ハビタットはカトマンズにおいてもスリランカでの下水処理施設改善事業同様にバクテリア、バイオ製剤を利用した水浄化プロジェクトの実施、環境保全啓発活動に取り組んでいます。5月にバイオ製剤「アクアリフト」で実証実験したところ水の透明度が良くなり高い効果が報告され、ネパールの都市生活省やネパール大学のシャルマ教授と連携し水質検査を続けていくことになっています。バクマティ川でも汚泥を浄化し水質は著しく上がるだろうと予想されていますが、川全体がよくなっていくのは早くとも3年かかるとのこと。

国連ハビタットはミャンマー、中国等同様にネパールにおいても「水と衛生」に関する事業を続けていきます。(野田修司)

■ハビタット支援コンサート

今年で25回目を迎えるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの日本ツアー2013の公演が去る7月10日にアクロス福岡のシンフォニーホールで開催されました。アジア太平洋こども会議・国連ハビタット福岡本部を支援するコンサートとしてパナソニックが毎年主催しています。



今回のベートーベン・ドボルジャーク等の曲の演奏は、クリアで躍動感ある音色となって会場の隅々まで響き渡り、多くの聴衆を魅了したに違いありません。フィナーレはとても大きな拍手で包まれていました。また、会場では国連ハビタットの募金活動も行われました。(山口明巳)



■ネルムさんの定年退職お祝い会

5月16日、この日の5月定例会は通常とは趣向を変えて福岡市南区大橋近くのモンゴルレストラン「モンゴルの城」にて国連ハビタットスリランカ出身職員ネルムさんの定年退職慰労会を兼ね開催されました。私個人としては本格的なモンゴル料理店は初めてだったので数日前より大変楽しみにしていました。

圧倒されるくらい立派な入り口の門をくぐって店の中に入ると、大草原の遊牧民が暮らすゲルや空間があり、赤座テーブルが円を描くように配置されていました。

ネルムさんは、夫ランジットさん、息子夫婦とお孫さんを一緒に連れて来られました。定例会の通常報告後、腕と腕を組み合わせて杯を飲み合うモンゴル式乾杯を市民の会メンバーと行い交流会が始まりました。宴席には本場モンゴル料理のホーショーローや骨付きラム肉のチャンスンマハ、モンゴル風春雨炒めなどが出され大変おいしかったです。

お茶目でやんちゃなお孫さんも、市民の会メンバーからは人気で、会の盛り上げに一役担っていました。

会中、ネルムさんが市民の会メンバーにしんみりと長年の国連生活を振り返って語られ、特に2004年スマトラ島沖地震災害が最も忘れられない、印象・記憶に残っている出来事とのことでした。

店内にはジンギスカンの肖像画が掲げられ、ゲル内と雰囲気でもあったせいか、私はモンゴルの遊牧民になったような気分にもなりました。帰りの際ネルムさんはじめ、市民の会メンバーでモンゴル民族衣装・帽子を身にまとい大変楽しく盛り上がりました。もう一度ここで定例会をしたい、と思わせるとても楽しい一夜でした。(山前隆)



■職員インタビュー/ネルムさん

2013年5月末日をもって国連ハビタット福岡本部を退職されるMs.Nelum De Silvaさん(スリランカ出身)に「モンゴルの城」での食事会の最中にインタビューを行いました。当初は、退職祝いの食事会だけでインタビューの予定は全くありませんでしたが、途中せっかくなのでインタビューをという話になり、Ms.Nelum De Silvaさんが急なオファーにも関わらず快く引き受けていただいて、インタビューが実現しました。

○国連ハビタットへ参加したいきさつを教えてください。

国連ハビタットでは7年間働きました。それはとても素晴らしい経験で、やりがいのあるものでした。元々は他の国連機関で働いていましたが、私の母国スリランカで2004年12月に起こった、スマトラ沖地震の津波による甚大な被害がきっかけで国連ハビタットに加わりました。

津波の後の被害状況はすさまじく、住む所を失った人など助けを求めている人がたくさんいました。私達はその人達を助けるプログラムを行いました。具体的には、家を失った人達のために家を建てたりしました。そして、そのプログラムは大成功でした。

○福岡にはいつごろ来られたのですか？

津波被害のプログラムの後に福岡にきました。ハビタット福岡本部には5年間位在籍しました。しかし、私は福岡のオフィスにはあまりいなくて、他の国によく行っていました。たとえば、アフガニスタン、パキスタン、ミャンマー、インドネシアなどです。私はそれらの国で、人々がお金を稼いで生活できるようになるために、技術やスキルを教えたりするなどのプログラムを行いました。

○日本での勤務はいかがでしたか？

福岡のスタッフは本当に素晴らしい人達でした。また、日本人も非常に親切で素晴らしい人達でした。日本ではいろんな所を旅行して、きれいな場所をたくさん見ました。日本は本当に安全で住みやすく、人々も親切できれいな場所も多くて、とてもいい国だと思います。

○福岡はいかがでしたか？

福岡は本当に住みやすく居心地が良く、人々も親切で大好きな街です。私の母国であるスリランカでは、夜に女性がひとりで歩くのは考えられませんが、福岡ではそういうことはありませんでした。桜の季節の福岡は特にいいですね。また、私はショッピングが大好きなので、地下街などのショッピングモールを見て歩くのも大好きでした。

○福岡で好きな場所はどこですか？

たくさんありますが、一番としてあげるなら大濠公園です。私の職場のあったガーデンテラスのあるビル(アクロス福岡)も大好きでした。

○趣味は何ですか？

まずは料理です。日本食は習って勉強しました。特に刺身や寿司が好きで、寿司は料理教室にも行って勉強しました。あとは、音楽鑑賞やダンスやショッピング。そしてなんと私にはソーシャルワークが好きです。引退後も母国のスリランカでソーシャルワークを続けていきたいです。

○今回の「ハビタットひろば」ではスリランカのパティカロア市での下水処理施設の改善プロジェクトの講演がありますね？

パティカロア市の下水処理施設を改善した、非常に成功したプログラムだと思います。ハビタット福岡本部は、他にもラオスやネパールなどの国でも、水や下水などの施設の改善を行うプロジェクトを実施し、成功を収めています。日本のテクノロジーは本当に世界で役に立っていると思います。

インタビューの途中、Nelumさんからの質問に牟田代表が語った「私には夢があるんです。私はスリランカに日本人が中長期ステイできるコミュニティを作って、そこへ日本の定年退職者や目標を失いかけている人達を送り込んで日本人とスリランカ人の双方にエネルギーと活力を与えたいのです。」という言葉に、Ms.Nelum De Silvaさんの方が感心される一幕もありました。

退職される約2週間前だったということもあり、これまでの国連ハビタットでの活動や福岡での思い出を熱く語っていただいたMs.Nelum De Silvaさん。私たちにぜひ家族を連れてスリランカにもお越しくださいと熱心に誘っていただきました。退職後はご家族とゆっくりと過ごしたいと語りつつ、大好きなソーシャルワークはスリランカでも続けていきたいとおっしゃっていたMs.Nelum De Silvaさんの熱いスピリットには、本当に感動させられました。

私たちはこれからもずっとMs.Nelum De Silvaさんのご健康とますますのご健勝をお祈りしています。

(野田修司)

■福岡本部長に深澤氏就任

2012年7月16日に前本部長が離任してから空席となっていた国連ハビタット福岡本部長職に、2013年6月1日、深澤良信（ふかさわよしのぶ）氏が就任されました。

深澤新本部長は、1982年に国土省（現国土交通省）に入庁以来、国連人間居住センター（ハビタット：ケニア）居住専門官や国連人道問題局（スイス）救援調整部救援調整官（アジア担当）、人と防災未来センター副センター長（兵庫県復興総括部参事）等を歴任しました。2012年1月に上級人間居住専門官として国連ハビタット福岡本部に着任し、モンゴルやスリランカにおける事業を監督する他、住宅・スラム改善分野の担当として活動を続けてきました。



ハビタット福岡市民の会にとっては、「ニュースレター第35号」（2012年4月19日発行）のインタビュー記事でご協力いただき、その温かな中にも熱い情熱を持ったお人柄が印象深く残っていたこともあって、今回の本部長ご就任のニュースが他人事とは思えず、本当に嬉しい出来事です。

8月1日に開催された「ハビタットひろば」での冒頭では、国連ハビタット福岡本部16周年記念と共に、深澤新本部長の就任挨拶がありましたので、要約してご紹介致します。

「国連ハビタット福岡本部は、1997年8月1日に設立され、ちょうど16年が経ちました。私は、今年6月1日に本部長職を拝命して2カ月が経過しました。国連ハビタットの福岡本部（アジア・太平洋事務所）の仕事を改めてご紹介しますと、福岡ではアクロスという立派なビルにオフィスを構えている一方、アジア・太平洋各地の災害や紛争で痛めつけられた地域やスラム地区における生活や住宅の改善のお手伝いをするのが主な仕事です。例えば、アフガニスタン、ミャンマー、イラク、スリランカといった、内戦や戦争で多くの人々が避難することになった国などです。

国連ハビタットは、日本をはじめ、各国から資金を預かり、被災地の現地の方々と一緒に住宅の再建などに取り組んだりしています。ここで大事なことは、お預かりした資金を現地の業者に再委託して住宅を作ったりしてもらうのではなく、現地の住民の方々にもそれぞれ労働力を提供してもらい、お互い協力し合って、住宅や道路などのいろんな再建に取り組むことです。

その過程を通じて、現地の方々も住宅などの勉強をするだけでなく、その取り組み自体が貴重な体験勉強・プロジェクトとなることによって、国連ハビタットが現地を離れた後も、現地の方達には力がついて、自分たちで元気を

出して前に向かって進んでいけるようになります。このことは、とても誇りに思っています。

一方、地元ではこういう場（ハビタットひろば）を通じて、国連ハビタットの活動を紹介したり、小学校から大学まで、学校などからも声がかかれば出向いて、私達の仕事の紹介、あるいは国連の事などいろいろな話をさせていただいています。

今後もこのような形で、私達の顔が見えるようないろいろな活動をご紹介していきたいと考えています。この場をかりてこれまでのご支援にお礼を申し上げますと共に、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。」

ちなみに、深澤新本部長からの就任に関する正式コメントは、国連ハビタット福岡本部のホームページ上で既に発表されていますので、そちらもぜひご覧ください。

私達は深澤良信氏の新任本部長ご就任を心よりお慶び申し上げますと共に、ハビタット福岡市民の会では全面的に深澤新本部長を応援し、今後益々のご健勝・ご活躍をお祈り致します。（野田修司）

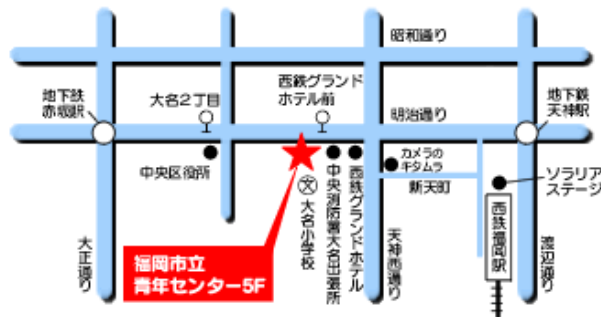
■今後のスケジュール

2013年

- 8月7日（水）19:00～21:00 定例会
ニュースレター39号発行
- 9月11日（水）19:00～21:00 定例会
- 9月13日（金）～22日（日）ケニヤスタディツアー
- 10月1日（火）ハビタットひろば
- 10月6日（日）ハートフルフェスタ出展
- 10月16日（水）19:00～21:00 定例会
- 11月9日（土）～10日（日）地球市民どんたく出展
- 11月20日（水）19:00～21:00 定例会
- 12月1日（日）ハビタットひろば
- 12月18日（水）19:00～21:00 定例会
ニュースレター40号発行

☆定例会は10月より原則として第3水曜日になります。
☆日程は、変更になることもあります。

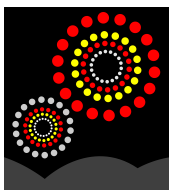
直前に、ホームページでご確認ください。
定例会の会場は、原則として福岡市NPOボランティア交流センター「あすみん」（下図）で行います。定例会後、希望者による食事会も行っています。参加お待ちしております。



編集後記

今年の夏は、早く梅雨明けし、例年になく猛暑日がつづいていて、ときおりスコールみだいなものすごい雨が局地的に降るといってまるで亜熱帯の気候に思えます。この異常気象は、地球温暖化によるものでしょうか・・・災害の多発が心配です。

今回の原稿は比較的スムーズに皆さんに提出してもらい少し余裕のある編集が出来ました。ただ原稿作成が事務局長に偏ったので、次回第40号記念号は広く皆さんに作成をお願いします。（牟田）



事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46
福岡市NPOボランティア交流センターあすみん連絡ボックス2号

お問い合わせは：

TEL：090-6770-2481（牟田）

FAX：0942-41-2080

E-mail：muta@ktarn.or.jp

HomePage：http://cnhf.web.fc2.com

